

九州女子大学
家政学部 人間生活学科

令和2年度 社会人入学試験 I期
編入学試験 I期
社会人編入学試験 I期

小論文

九州女子大学 家政学部 人間生活学科

社会人入学試験Ⅰ期

令和二年度 編入学試験Ⅰ期 小論文 試験問題

社会人編入学試験Ⅰ期

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

新聞紙上のたった2行のほめ言葉が、無名だった画家を励まして、押しも押されぬ存在に導いた話がある。シルクロードの絵で知られる故平山郁夫さんは20代の終わり、体調の悪化をおして「仏教伝来」を描き、日本美術院展に出品した。

数日して、名高い美術評論家だった河北倫明の院展評が新聞に載る。記事の末尾で「おもしろい味がある」とだけほめていた。平山さんは歓喜する。何度も読み返しては、励みにして描き続けた。「ボクシングでいえばダウン寸前に救われた」と。

その2行がなければ、のちの輝かしい画業はなかったかもしれない。そう思えば、ほめる言葉は大切だ。実際のところ、ほめられることで運動技能は(1)コウジョウウするのだという。日本の科学者グループが先ごろ実験の結果を発表した。

キーボードを打つ速さで調べた。1回目を打ち終わった後にほめられた人たちは、2回目の結果が20%上昇した。「ほめて伸ばす」ことの科学的な(2)ダトウ性が示されたと、グループは(3)ブンセキしている。

人間の脳は、ほめられることを報酬と感じ取るそうだ。平山さんとキーボードの実験は、かけ離れているようだが根は同じだろう。芸術も日常生活も、(a)なべて人の営みである。

「三つ叱って五つほめ七つ教えて子は育つ」などと俗言にいう。なかなかの(b)塩梅あんばいと言うべきか、中学生も、親にほめられることの多い子は自己否定感が低いという調査結果がある。ほめ上手にして叱り上手。誰もそうありたいと願うところだが、さて。

「天声人語」『朝日新聞』（二〇一二年十一月二〇日付け朝刊）…承認番号（二〇一七四四）

問一 棒線部(1)(2)(3)のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 棒線部(a)(b)の言語の意味を述べなさい（一〇字以内）。

問三 文章をふまえて、あなた自身の体験をとおした「ほめ言葉」への気づきについて述べなさい。ただし、句読点を一字に数える（四〇〇〜五〇〇字）。

